



3月13日に愛知大学で愛知県が主催する「あいち観光まちづくりフォーラム」が開催され、学生による観光振興のための提案を競う「あいち学生観光まちづくりアワード」で7チームの大学、高校が愛知県内の各地の魅力を生かした発表を行った。

榎山女学園大学現代マネジメント学部は名古屋市長若宮商業高等学校と共同で出場し、①魅力ある観光地が少ないといわれる愛知県

### 名古屋の観光振興策

やすい大都市の特徴を生かした滞在型観光を推進する一ことを提案した。

愛知県、特に名古屋市は有名な観光地が少ないことから魅力のない都市と考えられており、名古屋市が行った調査では全国の主要8都市の中で最も魅力のない都市となり、「訪問意向」は京都の37・6、東京の36・6に対して名古屋は1・4と極めて低い結果となった。

しかし、観光地は少なくても生活していく上で必要な施設は非常に充実している。名古屋駅や栄には百貨店だけでなくブランドショップや家電量販店などの専門店。

「住みやすさ」が名古屋にはあり、便利な住みやすい街という特徴を生かして、長期の滞在が可能な観光地としてアピールしていくのである。

長期の滞在をさせるためには、長くいても飽きさせないために多くの観光地が必要となる。かつて大須は典型的なシャッター街になりかけたが、電気店やアニメなどのサブカルチャーの店、各国料理の店などで若者をひきつけて復活を果たした。同様の復活は覚王山でも起こっている。覚王山は日本とタイの友好でお釈迦様のお骨が納められている日泰寺や、松坂屋の創業者の別荘で外国の要人や留学生を受け入れていた揚輝荘がある昔からグローバルな街である。レトロな街並みで歴史を感じられる一方でインスタ映えのする若者向けのおしゃれな店や人気シェフの店が増えて、古くからあるものと新しいものが混在して幅広い年代に支持される街となっている。

このような地域を増やしていくことで見るところのない名古屋を魅力ある名古屋に変えていくのである。

名古屋城の木造での復元のような大規模なプロジェクトだけでなく、商店街の再生や有名人の銅像や墓、記念碑等の整備で行きたいところ、見たいところを増やして長期の滞在をいたくする都市にすることが観光振興には不可欠である。

## 快適都市での滞在型観光の提案

で、学校間のつながりである「学脈」により各学校が地元の魅力ある観光地を紹介する②観光インフラとして多言語表示による案内や無料WiFi-Fiなどを整備して情報発信する③過剰



榎山女学園大学現代マネジメント学部准教授 水野 英雄

みずの・ひでお 国際経済学、貿易政策、経済政策。名古屋大学大学院経済学研究科博士課程後期課程退学。1968年生まれ。

門店が集結している。交通は地下鉄、JR、新幹線、名鉄、近鉄、中部国際空港や名古屋港があり非常に発達している。東京と大阪の狭間で存在感が薄いといわれるが、逆にいえば東京にも大阪にも近く移動には極めて便利である。自動車産業が盛んで道路や駐車場が整備されており運転しやすい環境にある。気候は温暖で過ごしやすく、山や海といった自然にも恵まれている。

東京のように過密が問題となる大都市とは違った